

まあるの庭

2025. 5. 29

ゴールデンウィークだった。連休といわれると、どこかに出かけたくなる。いや、出かけなければという半ば義務感のようなものに襲われる。南北の縦の移動は危険である。渋滞に巻き込まれる可能性がある。一方、東西の横の動きならば、まだましかもしれない。

相馬方面に行くことにした。目的地は、ランチ会場となる場所である。何とか開店時間直後に到着できた。これが正解だった。次から次へと、お客さんが入ってくる。何度か、このお店には来ているが、こんなことは今までなかった。やはり大型連休なのである。

ランチの後は、ノーブランチである。とりあえず、浜の駅に向かった。ある程度は予想していたが、案内の定すごい人だった。駐車場に車を入れるのにたいそう難儀した。次は、お決まりのおいしい珈琲である。せっかくだからと、新規開拓にチャレンジすることにした。進路を新地町に定めた。ナビを設定し、案内されるままにハンドルをきった。すると、新地駅にたどり着いた。そのカフェは、駅前の複合施設の一角にあった。以前も来たことがあるが、新地町の駅周辺は、きれいに整備されている。だが、連休のわりには人の姿はまばらだった。それが、震災の爪痕を思い起こさせる。

珈琲の後は、さてどうするか。検索すると、近くにバラ園があることがわかった。また、ナビに導かれ、目的地を目指した。鹿狼山の登山口に来た。けっこう車がとまっている。駐車場も広い。さらに進むと、到着した。入口には、「新地 Garland まあるの庭」とあった。バラ園である。

計画など立てずに、何となく行動していると、ふいに思いがけないものに出会うことがある。今回もそうだった。まだバラのシーズンではないためか、連休中とはいえ人は少なかった。おかげで、ゆっくりとまわることができた。

気になることがあった。バラの品種名である。人名が目につく。「イングリッドバーグマン 1981 デンマーク」といった具合である。オードリーヘップバーンやカトリーヌドヌーブもある。オーギュストルノワール、レオナルドダヴィンチ、クロードモネ、ポールセザンヌなど画家の名前もある。

どのようにしてバラの品種に名前がつけられるのか。多少、気になる。残念ながら、まだ咲いてはいないため、そのバラがヘップバーンのような花なのか、モネの雰囲気があるのか、判断のしようがなかった。

今回は、下見ということで、もう一度バラの季節に訪れるしかない。「CJ Monmo 5月号」を見つけた。表紙には、「癒やしのバラ園へ」とある。何というタイミングだろうか。ページをめくると、すぐに「まあるの庭」が出てきた。無計画がゆえに、こういった展開になることがある。